令和8年度　兵庫県委託事業　在宅医療における多職種連携による食支援体制整備事業
（公社）兵庫県栄養士会

「進行性疾患と闘う 70代男性に寄り添う栄養ケア」

～糖尿病のあるパーキンソン病患者の体重減少を食い止める～

症例概要

「減る体重、深まる絆」家族と共に歩む栄養ケアの軌跡

■患者情報

・年齢・性別・主な疾患：70代・男性、パーキンソン病Yarh3、糖尿病

・経過：妻と娘3人暮らし（キーパーソン娘）で、パーキンソン病の進行に伴い食事摂取量が減少。
糖尿病及び低栄養による両足褥瘡あり。摂食・嚥下機能は特別悪くはなく、奥様が毎日手作りで食事を提供している。娘様が食事記録（何を食べたか）を毎日記録し、体重変化にも注意していた。

■栄養支援の経過

・摂食状況：主治医から指示されたご飯量を計量するなど、前向きに取り組まれていた。

・対応：ケアマネジャーと連携し、活動量の把握、身体計測、食事内容の確認を実施した。
使用している食材量は比較的多く、エネルギー摂取量は概ね適正であったが、たんぱく質摂取量は不足傾向であった。そこで、食事記録をもとに具体的な食品追加例を提示し、たんぱく質摂取量を増やす方法について説明した。



■管理栄養士の関わり

・指導内容：食事記録には摂取した食品の内容は記録されていたが、摂取量の記載がなかった。エネルギー摂取量等をより正確に把握するため、グラム単位でなくてもよいことを伝え、手のひらサイズや小鉢1杯など、手間のかからない目安で量を記載する方法について説明した。

介入の効果



たんぱく質・エネルギー摂取量の改善と血糖コントロールの向上

ご家族の協力のもと、デイサービスを利用しながら在宅療養生活を送られていた。食事記録と体重は、娘様が毎日献身的に記録していたが、体重低下と踵部の軽度褥瘡が認められていた。
ご家族の協力的な姿勢を評価しつつ、献立のアドバイスを行い、デイサービスでの活動量についてもケアマネジャーと連携を図った。

結果として以下の改善が認められた。

・たんぱく質摂取量の増加：45g/日 → 55g/日へ改善
・体重の安定維持：3か月間、体重51kg（BMI 20）を維持
・エネルギー摂取量の増加：1300kcal/日 → 1500kcal/日
・血糖コントロールの改善：HbA1c 7.7% → 6.1% に改善

ご家族と多職種の声



”ご本人の希望をかなえつつ ご家族様の支援も賞賛

■家族の声：「簡単にたんぱく質を増やす献立やおやつを提案してもらい助かりました。身体計測により父の下肢筋力低下が数値で確認でき、理解しやすかったです。
エネルギー量やたんぱく質量が分かる食事記録の書き方も教えていただき、日記のように生活の出来事も記入することで活動量も把握できました。これなら継続できそうです。
管理栄養士さんはいつも家族のストレスになる部分や本人の希望を聞いてくれて嬉しかったです。」

■ケアマネージャーの声：「献立内容を分かりやすく説明していただき、ご家族も手軽に調理しながら、たんぱく質を十分に摂取できるようになりました。
今後も食事で困った際には相談したいとの意向がありました。」

まとめと提案

この症例は、継続的な訪問支援により、ご本人およびご家族の栄養に対する理解が深まり、具体的な食事改善が実践された。たんぱく質およびエネルギー摂取量の増加に加え、体重の維持やHbA1cの改善といった客観的な成果も得られており、栄養介入の効果が明確に認められた。ご家族様のお食事に対する不安も解消でき、患者・家族双方安心して在宅療養を継続できると考えられます。

兵庫県栄養士会栄養ケア・ステーション　TEL 078-251-5311